

問5 多くの学生の皆さんに、「子どもの居場所」の活動へボランティアスタッフなどとして、参加してもらうためには、どのようなことをしたら良いと思いますか。

自由記述（概要版）

皆さんから、広報を徹底すべきという意見が数多くいただきました。

【広報】

- ・媒体：ポスター、チラシ・パンフレット、大学メール、SNS、ホームページ、大学授業、講演会
- ・場所（インターネット以外）：学校内部（ホームルーム、掲示板、講義・講演会場等）、公共交通機関、商業施設
- ・方法：キャッチコピーや音楽の周知、言葉（「子どもの貧困」「子どもの居場所」）の周知徹底、教員や保育士志望の学生に対象を定めて広報する、大学教員との連携（継続参加のため）、ボランティア活動内容の教育現場への発信、定期的な情報発信、開館日の公開、子どもの居場所の重要性や意義・目的及びボランティア参加者に対する活動の成果の理解促進、活動証明書を発効、活動経験談の公表等

【応募の簡易化】

- ・申込窓口を広く持つ（インターネット、電話、SNS等）
- ・日時を指定しない参加
- ・講義・講演後にボランティア参加者を募る

【授業に組み込む】

- ・講義
- ・単位の取得要件とする
- ・授業での試行参加

【有償化】

- ・ボランティア参加有償化
- ・ボランティア参加者へ活動の一環としての食事提供

【参加への心理的ハードルを払拭する】

- ・小学校、中学校、高校時代から活動を見学
- ・参加する際のコツ（不安を払拭するための助言）の事前宣伝